

恵那市内で、見つかった Lindernia に「エナウリクサ」と命名



恵那市内で見つかった名前が分からなかった植物は、日本国内では未発表の植物である可能性が高く、岐阜県植物研究会に原稿を送り「エナウリクサ」と命名して発表しました。会報誌での発表はまだ先になるかと思いますが、簡単にこれまでの事の経過と、このエナウリクサの特徴をお伝えします。

興味があり、詳しく知りたい方は、「NPO 法人恵那野生植物の会」の事務局又は私に問合せをください。また、岐阜県植物研究会の会報誌が発行されましたら、そちらも合わせてご覧ください。

発見までのいきさつ

2017年9月20日、私が代表を務める「NPO 法人恵那野生植物の会」の定例調査&観察会で上矢作町の下集落を歩きました。その歩き始めの林道入り口で、見たことの有るような無いような粗い鋸歯の丸っこい葉を対生に付ける、ウリクサのような植物に気づきました。同行の仲間の数人に聞いてもはっきりした名前は出ず、しかし大した反応を誰も示さなかったことも有り、私もそれ以上気にも留めずいつもの調査に没頭。その後花が確認したかったので何度か通っては見たのですが、種を付けている株ばかりで花は一つも見ることができませんでした。

翌年、2018年10月14日道の駅、「ラ・フォーレ上矢作」の前を走る R257 のガードレールのすぐ横で、この植物と同じと思われる一群に出会いましたが花もなく特に収穫無し。ただ、二カ所目が出たので他にも広がっているのかなと気にはしましたが、それ以上追及せずいつしか忘れてしまいました。



次の年、つまり今年の8月19日、変わったシダが有るという情報を確かめに、岩村町の小沢林道に向いました。シダは特に変わったものではなく、そこそ楽しんで帰ろうと少し遠回りをしたところ、なんと、このウリクサ似の植物にまたしても出会ってしまいました。しかも、開花真最中！！

花が分かったので、すぐにも名前も知れると思いましたが、それが苦戦。帰化植物図鑑を出している全農協友の会に問合せをしてみました。何の収穫も無し。

懇意にさせていただいている岐阜県植物研究会のシダの先生にメールで相談しているうちに、もしかして新種の外来植物かもね、という話が出てから、なるほど未発表の植物だとしたら情報も出ないわけだと思っていた矢先に、仲間の一人から、*Lindernia* 属で、学名を *Lindernia nummulariifolia* という中国かインドの植物らしいと、知らせが入り、ネットで検索すると、出たあ！丸い葉も、花もそっくり。書いてある説明文の詳細までは判読できないが、違和感は無。特徴も一致する。

Lindernia nummulariifolia と、この恵那市で見つかったウリクサ似の植物は同じものと判断しました。原産地は、中国らしい。



これを書いている現在、恵那市内で合計 4 カ所の生育地が確認されています。

植物体の主な特徴

アゼナ科 *Lindernia* 属の他の植物と大差なく、背丈は 10cm 内外の 1 年草。四角い茎を立ち上げ、2-3 回分岐を繰り返す。節に長さ幅とも 2cm ほどの卵形でごく短い柄を持った葉を対生に付けます。丸い形の葉と、粗い鋸歯が印象的です。

花は、5-7 ミリほどで 2 唇花。開花時期は、8 月中旬から 9 月上旬と思われ、一斉に咲き始め一斉に散るようです。花が終わると、花を付けなかった株もすべてが、閉鎖花を付け始めます。



ところで、命名するにあたって、この植物の一番の特徴は、何と言っても丸っこく対生する葉に有ると思ひ、当初マルバウリクサと思いついたのですが、葉に明瞭な鋸歯があり、植物界ではマルバと言うと鋸歯が無いことを表すことが多くあり、違和感が出るとのことで、考えあぐねていた折、私の植物の師匠から「エナウリクサ」はどうかと提案され、一気にそれに決めました。恵那と言う名前が入った植物は、今まで無いし、私も恵那にかれこれ 30 年住んでいるので、愛着のある恵那という地名の入った植物が誕生することは

すごく嬉しい。また、この植物の姿や花も可愛くてマスコットになりそうなのが何よりでもあります。

「エナウリクサ」は、外国の植物ではあるけれど、恵那の地に舞い降りたのは何かの因縁。多くの人に見ていただき、大いに興味を持っていただきたく思います。

2019 年 9 月 27 日

高水正夫